

日豊魂

日本体育大学
東京都同窓会会報

第26号

令和元年12月1日発行
発行者 東京都同窓会会長
高田 幸一

「平成の時代から
令和の時代へ」

東京都同窓会会長

高田 幸一

初冬の候皆様におかれましては益々ご清栄のことと存じます。日頃より東京都

同窓会の活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。

現在、昭和・平成の時代に生きた人的財産と知的財産を活かし、令和という次世代に生かすため新たな企画・事業を行っています。

それは、平成史として東京都同窓会の歴史をひとつにまとめる編集です。これらの時代に生きた同窓会一人の活動をしっかりとらえて記録したいと考えています。

具体的な活動は、昨年度より ①教員名簿の整理 ②企業で活動している情報収集と整理 ③今まで長年ご尽力された方の原稿依頼と

整理を行っています。

会長を、平成二十七年より岡田先輩から引き継ぎました。尊敬している先輩から組織をしっかりと受け継ぎ発展させ、さらに生活感の異なる時代を超えた後輩に伝える作業です。

この事業は、取り組み始めたばかりです。五年前、引き受けてすぐは、創立百二十五周年に向けた実験的



な取り組みでした。

一九六八年に、今というJICA、日本青年海外協力隊が中南米に初めて派遣され、この写真には、四名の日体大の卒業生がいました。私の仕事は、東京都同窓会の活動の事実と記録を示し、その中で生きた先輩方の活動を掘り起こし後輩に引き継ぐ事です。

記録で示すことが重要で

あると考えたからです。日体大をこよなく愛し、大学の発展を考え活動する先輩とその同窓がいました。また、過去には活動資金集めや収支決算等に多くの労力を費やし、同窓の力で多くの課題を解決してきました。今後とも東京都同窓会活動にご理解ご協力をお願い致します。



「日体魂」

日本体育大学同窓会

民間企業部門

幹事 町田 信行

「日体フェスティバル」

の中日、二〇一九年十一月二日に「民間企業人全国大会」が開催されました。

かつての日本体育大学は「体育教師」の育成学校と言っても過言ではない程、体育の先生は日本体育大学出身者が多くいらっしゃいました。私は一九八八年卒業であるが、その時も「体育教師」を目指す人が多くいました。

時は流れ現在と言いますと、「体育教師」「警察官」「消防団」など公務員は三割程度で「民間企業」に就職する人間が約七割と時代の変革がなされてお

ります。したがって、日本体育大学OB・OGが民間企業で活躍する時代になったのです。そして企業の社長も日本体育大学出身者がいるのも嬉しい限りです。

今までの「同窓会」とい

うと学校の先生方が中心となって実施して参りましたが、封建的な上下関係で足が遠のいてしまう弊害も事実ありました。そして今回こけら落としと言うべき初めての「民間企業人全国大会」の実施にたどり着きました。結論から言いますと、実施してとても良かったです。当日はOB・OGの提案により「校歌斉唱」に始まり、松浪理事長の講演がスタートしました。理事長からは「日体企業人に期待するメッセージ」

として心を打つお話がございました。

現在「日本体育大学」も

変革の時を迎え、時代に合ったスピード感をもった学校運営をしていると理事長のメッセージがとても印象的でした。

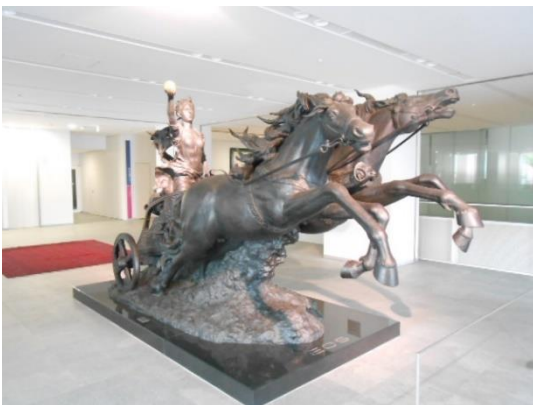
またOB・OGから「私が母校に出来る事」の提案があり、卒業後も皆「母校愛」があり企業も卒業生を歓迎する暖かな言葉があり、その中にも決して臆盾をするのではなく、厳しい目をもって迎え入れるとの事でした。

支部の「活動事例」では成功事例は当然として、このような事は「失敗事例」で支部組織の発展につながらない等の貴重な意見がお聞き出来ました。場所を「青葉台フォーラム」に移動して行われた夜の「懇親会」では全国

の企業人の懇親が老若男女で交わされ、日体大パワーを感じました。

最後に、全国にいらっしゃる「日体大企業人」のネットワークを今後生かして、世の中全体に「流石、日本体育大学」という範を示していければと感じました。

今後とも「教員」と「企業人」の強みをコラボレーションしていければ幸いです。



「委員会の運営と今年度の教員採用試験の結果報告」

教育支援委員会
支援委員長

大瀧吉夫

二〇一九年度、第一回東京都同窓会教育支援委員会が四月十三日(土)十三時より世田谷キャンパスにて開催されました。

私から会の初めに、今年度は役員改選の年でもあり、改めて設置目的と教育支援委員会運用規定の見直しを提案させていただきました。改正点は第五条(任期)再任妨げないに加え、任期を二年間とする。第六条(人数)は十名程度から十名、十八名とし、構成員は(公立学校・私立学校の小・中・高・養護・特別支援・事務局の

経験豊富な人材」をバランスよく構成する。の二点を加筆し、執行部会で承認を得ることができました。今年度は私学から鶴貝秀明校長先生を新メンバーにお迎えし、委員十四名でスタートすることができました。どうぞよろしくお願い致します。

業務内容は教育実習巡回指導と東京都教員採用試験受験者の対策講座です。教育実習巡回指導は大学側からの依頼による都内教育実習生の事前指導に加え、実習期間中の巡回指導、そして実習終了後の事後指導です。今年度から年齢制限により巡回指導員の数が大幅に減少し講師二十名で二百五十名中、九十三名の学生を担当しました。

東京都教員採用試験受験希望者に向け、本学の

一年生～四年生、既卒者を対象に準備講座の開催です。今年度は四月・五月・六月は受験者を対象に三回の講座を企画しました。内容は教職教育、専門教育の学習ポイント、教育小論文の書き方指導と添削、面接の心構えと実践演習でした。講座申し込み者数は既卒者を含め三十三名でしたが、実際に講座に参加し受講した学生は二十七名でした。採用試験結果報告では受験者二十七名のうち一次合格者は二十一名、そして見事に二次合格者は十七名と受験者の健闘を称えたいと思います。十月・十一月・十二月の三回は一年生～三年生（二十五名）を対象に採用試験対策講座のテキストを使用し、対策講座の充実を図っています。今後とも同

窓会の皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

「慰霊式に参列して」

東京都同窓会
副会長

高山 士

第五回目となる日本体育大学慰霊式が、八月九日、世田谷キャンパス正門の慰霊碑前にて執り行われ、創設者の故日高藤吉郎先生をはじめ、先の大戦に於いて学徒出陣などで心ならずも戦没された同窓の方々を慰霊させていただきます。

参列者は、松浪理事長をはじめ法人各役職員の方々。教学分野では具志堅学長以下教職員、設置学校長。阿部一二三・詩兄妹を代表とする学生諸君。卒業後六十余年にもなる同窓生。都同窓会役員等。

所縁のある方々の列席を得て、炎暑の中ではあったが厳かに執り行われ、母校の「礎」となられた故人を大勢で偲んだ。

私は、百二十周年記念事業の一環で、新装成った世田谷キャンパスをよく訪問させていただいている。その折、何時も慰霊碑「魂」の前を通過して教育研究棟に入らせてもらっている。碑の前では、必ず感謝の黙礼をして通っている。その時に拝見することだが慰霊碑には、いつも献花がなされていることである。何方なのか、組織での献花なのか、心温まる情景を見せていただき、日体大の「心」つまり「建学の心」を垣間見ることができるのである。その「証」が五学部、八千人の偉容であろう。納得できるものだ。

時は少子高齢の世。就

学人口の減少は事実であるとは申せ、いつの時代にも於いても崇高な理念と教育実践には、人々の学びに対する欲求は途絶えることを知らない。そのことを思うと学舎は「城」を連想するのである。先人の営々とした努力と先見性の足跡は城閣石垣のように思えてならない。江戸城は勿論、竹田、津山、丸岡城等立派で崩れることなく見る人を圧倒している。この見事さは、水中や土に埋もれる一つ一つの石積みが、何百年も支え、人々の心を魅了している。その石積み作者を「穴太ノ衆（アナノシュウ）」と呼ぶらしい。丁度、本学を百二十五年前に積み上げた先人の姿に似ていないだろうか。先見性と努力を継承したい。

「第五回東京都同窓会 ゴルフ研修会報告」

相佐 光慶

昭和五十七年卒

令和元年八月二十七日
(火) 山梨県花咲カントリー倶楽部で開催されました。今年度も昨年同様猛暑の日が続いていましたが、当日は、早朝には、かなりの雨が降りましたが、曇り空で迎え、過ごしやすい当日になりました。当日は、二十五名の参加、その中三名の女性の参加がありました。

今回も昨年同様の早朝スループレーで企画されました。現地に六時集合、イン、アウトに分かれ七時前にスタートしました。スタートは、過ごしやすく快適な天候に恵まれ、楽しいプレーが行われました。スループレーで第一組が終了したのは十一時頃、最終組も十一時三十分には無事終了することができました。皆さん

入浴後、コンベールームで食事を兼ねて懇親会を行いました。懇親会では、今回初めて参加の方々のお話を聞くことができました。その内容は、前回のオリンピックでの日体時代の話があり、多くの学生が、ボランティアとしてオリンピックを手助けしたそうです。一九六四年の東京オリンピックの当時の話を聞くことができ、来年行われる東京2020オリンピック・パラリンピックがワクワクしてきました。

私は、アーチェリー部に所属していて、校舎の片隅で巻き藁を使用して良くシューティングの練習を行っていました。その横で、ゴルフ同好会が練習を行っていたのを覚えています。また、菅平のキャンプ実習でのゴルフが懐かしく思い出されました。私が、ゴルフを始めたのは、二年前です。少しずつ上達してきた結果、優勝は、大瀧吉夫さん、準優勝が、自己ベストスコアが出て、

運よくわたしになりました。いずれの先輩方も、大変上手でびっくりしています。今回で三回目の参加です。次回からは、さらに多くの方々とゴルフ研修会を通して懇親を深めたいと願っています。いつも、ありがとうございます。

次回の予定は、十二月二十七日(金)の予定だそうです。今後とも宜しくお願い致します。



編集後記

元号が「令和」となりました。いよいよ 2020 東京オリンピック・パラリンピックを迎えます。46年前の東京オリンピックにかかわられた同窓の皆様も 数多くいらっしゃるものと拝察いたします。広報誌「日体魂」も26号を発刊することができました。ご執筆いただいた各位には心より御礼申し上げます。

これからも、よりよい広報誌「日体魂」となるよう取り組んでまいります。ホームページと合わせてご協力をお願いいたします。

ホームページをご覧いただくには、アドレスバー（ネットの画面の左上にあります）に www.nittai-doso-tokyo.jimdo.com と入力してください。

ご要望など、東京都同窓会ホームページ事務局連絡フォームか、vzk00103@gmail.com に直接メールをお送りください。